リッチメディア注釈

axf:multimedia-treatment="richmedia" の指定によりマルチメディアデータをリッチメディア注釈として PDF へ埋め込むことができます。指定は <fo:external-graphic src="video.mp4" contenttype="video/mp4" axf:multimedia-treatment="richmedia"> のように行います。axf:multimedia-treatment="richmedia-windowed" 指定では別ウィンドウで表示、再生されます。リッチメディア注釈では再生のために外部プレイヤなどを必要としません。axf:multimedia-treatment="auto" などによるマルチメディア埋め込みとはサポートしているデータ形式、有効なプロパティなど異なります。詳しくはオンラインマニュアル「axf:multimedia-treatment」をご参照ください。リッチメディア注釈は Antenna House Formatter V6.5 から利用いただけます。なお、取り扱いは PDF1.7 以降で有効です。

axf:multimedia-treatment="richmedia"

axf:multimedia-treatment="richmedia-windowed"

axf:media-skin-control="all"、axf:media-skin-color="red"、axf:media-skin-auto-hide="false"

リッチメディアの再生、停止などが表示されるスキンは axf:media-skin-control（スキンのコントロール）、axf:media-skin-color（スキンの色）、axf:media-skin-auto-hide（スキンを自動的に隠すかどうか）など指定できます。

axf:media-activation

axf:media-activation はリッチメディアを有効無効にするタイミングを指定します。指定できる値など詳細は「axf:media-activation」をご覧ください。次のサンプルは PageOpen（コンテンツが含まれるページを開いたときに有効）と PageClose（コンテンツが含まれるページを閉じたときに無効）を組み合わせた例です。

axf:media-activation="PageOpen PageClose"